

2022年度 学校自己評価集計表

実施期間：2023年3月10日～3月31日

評価基準： 4 適切 3 ほぼ適切 2 やや不適切 1 不適切

評価項目					
1. 教育理念・目標		評価（4～1）			
・理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）		④	3	2	1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか		4	③	2	1
・理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか		4	③	2	1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか		4	③	2	1
<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などの学生・保護者への周知が不足。専門が複数あるためわかりづらい。 ・検定合格率を入れた目標値の設定があいまい。 ・教員の人材育成の課題。 <p>【今後の改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在校生には、保護者通信やメール、文書発送等にて周知を強化。また、外部にはSNS、HP、ブログ、動画配信をより効果的に活用する。 ・合格率を上げる対策講座を実施する。 ・人事体制の見直し。適切な研修。 <p>【特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学科の特徴をより明確的にしていく必要がある。 ・YMCA学院の理念をもっと分かりやすく、明確に表出し、その価値を伝えていく。 					
2. 学校運営		評価（4～1）			
・目的等に沿った運営方針が策定されているか		4	③	2	1
・事業計画に沿った運営方針が策定されているか		4	③	2	1
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか		4	③	2	1
・人事、給与に関する制度は整備されているか		4	③	2	1
・教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか		4	③	2	1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか		4	③	2	1
・教育活動に関する情報公開が適切になされているか		4	③	2	1
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか		4	③	2	1
<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材不足や次世代の担い手育成ができていない。 ・カリキュラムの見直し。 ・スタッフ人数の不足により、複数の業務を兼務している。 ・募集と施設の課題。 <p>【今後の改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人手不足改善と担い手を作っていくことで組織の活性化につなげていく人材育成。 ・業務の精査を行い、シンプルな業務遂行を検討。 ・時代にあった広報と専門性のある施設へのイノベーション。 <p>【特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世代間交代を考えた組織にしておく必要がある。 ・若い人材を確保し、サステナブルな運営を目指す。 					

3. 教育活動	評価 (4~1)			
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	3	2	1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	3	2	1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	3	2	1
・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	3	2	1
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4	3	2	1
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	2	1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	4	3	2	1
・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4	3	2	1
・資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	3	2	1
・人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	3	2	1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務を含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4	3	2	1
・関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	4	3	2	1
・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	2	1
<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門領域における職員の研修の機会が確保できない（時間、予算）。 ・指導者の研修の機会が少ない。経験値に任せた指導になっていないか。体現できる人材育成。 ・スタッフ不足、授業研究やスキルアップの機会が時間的に取れない。 <p>【今後の改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材発掘。計画的な採用と研修。 ・学科や担当科目以外の仕事内容の精査。 ・行事、業務分掌の整理、熊本YMCA全体の業務とのバランスを検討。 ・学科運営、指導方法をより見える化させる。 <p>【特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より専門的なものに特化した研修の機会。 ・積極的な協働をもっと進めるべき。 				
4. 学修成果	評価 (4~1)			
就職率の向上が図られているか	4	3	2	1
資格取得率の向上が図られているか	4	3	2	1
退学率の低減が図られているか	4	3	2	1
卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか	4	3	2	1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	1
<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OB・OGとのつながりが薄い。 ・在籍人数の多い学科において退学率が高めとなっている。また、専門領域における適正について難しい状況が見られ、退学へとつながった。 ・卒業生の追跡調査（資格取得等）が不十分。 ・働くことの意味や、社会の一員としての役割の理解を伝えることが不足している。 <p>【今後の改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職システムを卒業後も活用し、今後OB・OGのつながりを作っていく。卒業後も情報交換の機会を作る。 ・カウンセリングの向上を図る。 ・オープンキャンパスや入試にて適格を見定める。入学後、気になる学生について早期の情報シェアを行い、対応を検討する。 <p>【特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学科の成果は何かを明確にし、それが年度ごとに評価していくことでより良きものになる。 ・カリキュラムのアップデートを検討し続ける。 				

5. 学生支援	評価(4~1)			
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	3	2	1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1
学生への生活環境への支援は行われているか	4	3	2	1
保護者と適切に連携しているか	4	3	2	1
卒業生への支援体制はあるか	4	3	2	1
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	4	3	2	1
<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人手不足で可能なこと、不可能なことが出てきている。学生が相談できない環境、担当している学生数が多すぎる。 ・学科担当者以外から卒業生への連絡方法がない。 ・学生への生活環境への支援が十分ではない。 <p>【今後の改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材確保と財政状況回復が必須となる。人的体制の見直し。 ・卒業生専用のホームページを作成する。 ・学生とのコミュニケーションをより一層図り、情報を入力し支援をする。 ・熊本YMCA75周年記念 建築科大同窓会を検討。卒後の追跡調査を実施。相談窓口の設置。 <p>【特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生からの相談に対して学科担当者だけでは対応できない場合があるため、人材確保をしていく。 				
6. 教育環境	評価(4~1)			
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2	1
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1
防災に対する体制は整備されているか	4	3	2	1
<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設は新しくなったが、実習施設としては不足する部分がある。代わる場所・モノの確保が必要。東部校舎の利用など。 ・各専門領域における学習環境の強化。 ・外部の連携団体、施設などを広げる。 <p>【今後の改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東部校舎をどのように活用するのか課題であり、改善方法につながる可能性がある。 ・専門性を高めるための演習教材や環境を計画的に充実させていく。 <p>【特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 共有と協働を積極的に行う。 				
7. 学生の受け入れ募集	評価(4~1)			
学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2	1
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	3	2	1
学納金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1
<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ明けによる県外流出をどれだけ抑えられるか。大学全入の状況でどれだけ専門学校の利点をあげ、選んでもらえる学校になるか。 ・安定した学生数の確保。 ・オープンキャンパスでの体験授業のマンネリ化。専門学校を希望する対象者の絞り込みが十分ではない。 <p>【今後の改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部主催の規模の大きいガイダンスに参加することで、そこからつながりを持ち、アプローチし続ける必要がある。 ・募集専任職員を配置し、ガイダンスでオープンキャンパスへ勧誘。学科担当者はオープンキャンパスの満足度アップと在校生の満足度に専念する。学生募集活動の改善。 ・各専門領域における新しい内容の研究、市場調査を強化し、効率よくやり残しがない募集を行う。 <p>【特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 募集につなげるための企画講座を実施しているが、検証が必要である。 				

8. 財務	評価 (4~1)
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4 (3) 2 1
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4 (3) 2 1
財務について会計監査が適正に行われているか	4 (3) 2 1
<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学科の非常勤講師給与算額と実績の差異の把握が不十分である。 安定した収入、収支差が十分確保できていない。 <p>【今後の改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 入学者をできるだけ増やすことで、早く収支改善を行っていく。 財務担当者との情報共有を行う。各学科のチェック機能を強化する。 募集の強化を行う中で、収支差を生み、学生支援や学習環境の充実に充てる。 <p>【特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1人でも多く入学生を確保しつつ、職員の若返りが必要。 	
9. 法令等の遵守	評価 (4~1)
法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営が行われているか	4 (3) 2 1
個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか	4 (3) 2 1
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4 (3) 2 1
<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> SNSへの発信内容等、注意点の確認が重要。 勤務時間、休日確保できない。 全員が正しく理解し、伝えられるようにすべき。 <p>【今後の改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれが意識をした対応が求められるので日々意識すること。 役割分担の見直し、人的体制の強化。 内部での研修などを実施する。 <p>【特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現状と照らし合わせ、常にアップデートする。 	
10. 社会貢献・地域貢献	評価 (4~1)
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4 (3) 2 1
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4 (3) 2 1
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に行っているか	(4) 3 2 1
<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会貢献・地域貢献の明確化が必要。 内部ボランティアの案内が多く、外部ボランティアへの参加が少ない。 学生の時間の確保。 <p>【今後の改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> YMCAの活動が地域に根差した活動なので意識して活動を準備する。 ボランティア受け入れ窓口があるとよい。 学院全体として時間を生み出す。 <p>【特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外ワークキャンプやピースセミナーなどをカリキュラム化する。 	
11. 国際交流	評価 (4~1)
留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4 (3) 2 1
受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等が取られているか	(4) 3 2 1
学習成果が国内外で評価される取り組みを行っているか	4 (3) 2 1
学内で適切な体制が整備されているか	4 (3) 2 1
<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 留学生を受け入れた際の対応（ビザ申請など）の明確化。 日本語科担当者との連携が必要。 教室の確保。 <p>【今後の改善方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 担当者を決め、業務の明確化と出欠管理。 <p>【特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> これから18歳人口が減ることを考えて留学生の受け入れ増を目指す。 	